

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岐阜小学校

校長名 藤田 忠久

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	・学校、家庭、地域の役割の明確化により、持続可能な「地域創造型」の学校を目指す。 ・全員一斉に学校が課す「宿題」から、自ら進んで学ぶ「家庭学習」へ転換を図る。	A	・学校運営協議会においては「楽しい活動やふれあいを通して非認知能力を育てる」という目的を明確にした取り組みを展開した。またPTAは「親子で楽しむことができる活動」を企画運営した。子供を中心におき、学校・家庭・地域が日常的につながる機会を多くもつことができた。 ・「家庭学習」について、各発達段階に応じたためて・内容・方法等を示した手引きをもとに、各学年学級において相談や見届けをしながら進めることができた。	・学校では、児童のよいところを認める声かけが多く、学校、学級が落ち着いていた。認知能力を育む豊かな教育活動が展開されている。 ・保護者ボランティアとして参加することを通して、学校の教育活動の状況や先生方の細やかな心配りがわかった。 ・地域が学校の様々な活動に関わることで、元気をもらっている。 ・「家庭学習」の考え方は、大いに理解できる。大切なことである。	・学校、学校運営協議会、PTAの日常的なつながりを大切にしていく。 ・保護者ボランティアを日常的に募集し、保護者と学校、保護者と保護者がつながる機会を大切にしていく。 ・子育てや家庭の役割について、保護者と共に考える機会を設ける。 ・「家庭学習」が定着しにくい児童及び家庭への、支援体制を探る。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	・体験重視の確かな実践と、教科担任制、準学年体制の導入により、「主体的・対話的で深い学び」とカリマネの充実を図ると共に、「生き方」探求学習、「教育DX」導入を実践する。	A	・どの学年においても、五感で味わう体験学習を積極的に行い、充実を図ることができた。地域に出かける校外学習、コミュニティーティーチャーから学ぶ機会の設定により、興味をもって探求を進めることができた。 ・教科担任制、準学年担任体制の導入により、効果的に指導を進めることができた。特に、全学級教科専門の指導が入る英語科において顕著であった。	・どのクラスでも工夫が見られ、子供たちが積極的に授業に参加していた。体験が重視され、子供たちが取り組みやすいように、また興味を持って追求できるように考えられた授業で展開されている。 ・タブレットやテレビが日常的に使われ、一方通行ではないみんなで意見を出し合うような授業風景となっていた。	・ぎふまちの「人・もの・こと」に主体的/直接的に関わりながら探求学習を進められるよう年間カリキュラムを随時見直ししていく。 ・教科担任制・準学年担任体制を継続発展させ、学年集会形式や担任交代制を推進する。 ・教育DXを推進し、ロイロノートの有効活用や算数科の「単元内自由進度学習」導入により、個別最適な学習の展開を目指す。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	・幼保小で育てるべき資質を明確にして、互いに連携して同一歩調で取り組む。 ・ふるさとへの誇りを育てるために、小中が連携して互いに関わり合いながら取り組む。	B	・3年ぶりに、新入学児童と1年生が交流を行った。3月には、引き継ぎを丁寧に行っていく予定である。 ・3年ぶりに、小中合同あいさつ運動、「ふれあいフェスタ」への中学生ボランティアの参加により、直接交流ができた。	・「ふれあいフェスタ」の際の中学生ボランティアと小学生の交流がほほえましかった。異年齢の子供同士の交流は、思いやりや自信を育むと感ずる。 ・小学校に期待感もてるような、幼保・小の連携が行われるとよい。	・幼小連携推進事業に基づき積極的に幼保職員と交流し、幼小の円滑な接続を展開していきたい。 ・小学生と中学生が共に活動する場を大切にし、小中が連携して児童生徒を育てていきたい。
教育環境と学校財務環境の整備	・コミュニティスクール等の取組によって、人的・物的環境を整え、有効に活用する。 ・情報を活用して伝えたい内容を整理し、ICT機器等を駆使して発信できる児童を育てる。	A	・コミュニティスクール主催の「読み聞かせ」「サマースクール」「ふれあいフェスタ」などでは、子供たちが楽しみ「ふるさと大好き」になる活動を企画運営していただいた。 ・教師がICT活用のための日常的に自主研修を進め、授業等に有効活用できた。	・3年ぶりにコミュニティスクール主催の活動ができたことにより、参加者が「楽しかった、元気をもらった、子供たちの素晴らしさを感じた」等の感想ももてた。地域共創の考え方にに基づき、今後も積極的に活動を進めたい。 ・タブレットが実用化され、有効活用されていることが素晴らしい。	・コミュニティスクール主催の活動や、コミュニティ・ティーチャーを活用した教育活動を展開する。 ・ロイロノート等のシステムや、導入予定の大型テレビを有効活用する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・計画的かつ実態に即した命を守る訓練の実施や交通事故、不審者などについて随時指導をする。 ・コミュニティ・スクール委員やPTA役員と、情報や状況を共有し、児童への指導や安全確認などを行う。	A	・命を守る訓練を、様々なパターンで行うことで、一人一人が状況や場面に応じた避難の仕方考えることができた。 ・コミュニティスクール安全安心部会により、通学路の安全点検や、日頃の見守りを実施していただいた。	・命を守る訓練は、子供たちも真剣に取り組んでいた。教師の動きもよかった。今後、初期消火訓練も実施するとよい。 ・保護者や地域の皆さんの見守りにより、事故や怪我がなくてよかった。安全な歩行については、継続的な指導と見届けが必要である。	・命を守る訓練をはじめ、様々な場面で防災や減災についての意識を高めることができるように指導を積み重ねていく。 ・保護者や地域の方の意見を聞き、警察と連携しながら通学路の安全確保に努める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/gifu-e/>